

2014年度第10回キールボート委員会議事録

2015年3月27日(金)

ベーシックシステム会議室

- ◆ 委員長：中澤信夫 副委員長：金子純代
- ◆ 事務局：熊谷一樹 加藤文弥
- ◆ 出席者（順不同）：石黒建太郎 伊藝徳雄 児玉萬平 古川龍文
- ◆ 19:05 開会 / 20:50 閉会

◆ マッチレース総括(伊藝)

参加者とサポートとの繋がりが保てた。関東・関西・九州等々での練習会のサポートも素晴らしかった。来年以降も引き続き継続開催したい。初心者を含め、葉山でのセーラーズイベントと同時進行し循環できればもっとセーリング人口は広がると思う。エントリーもたくさんのおオーナー、ヨットクラブ等々に援助もいただき、1チーム6万円で納められた。すべてに感謝したい。今後は25歳を過ぎたレース参加者がボランティアスタッフに廻り、サポート人員を増やす道筋も作っていききたい。(伊藝)

もっとこの大会を普及させ、協賛の間口を広げれば更に円滑に運営できる。

来年も日産マリーナでの開催は可能か?(中澤)

日産マリーナ側も全面的に協力して頂いているので例年通りできると思うが、和歌山という選択肢もある。J/24ワールド後のチャーター艇の使い道もあるので、そちらへの移行も問題ないだろう。和歌山はシアトルにあるトレーニングセンターをモチーフに構想がある。予算的にも問題ない。宿泊施設も充実している。(伊藝)

インターハイが定点開催されるので、施設は充実するだろう。ボランティアの宿泊は委員会ですすようにして、出店も出してギャラリーを増やし、いい応援環境も作れば。(中澤)

開催地域も巻き込む環境も整えたい。(伊藝)

今後はボランティア参加人数を増やす施策も進めていきたい。またJSAF外洋東海に今後もサポートをお願いしたい。海では真剣にレースに参加し、陸に上がればフレンドリーに・・・これが本来のヨットレースのあるべき姿なのでは?(中澤)

◆ 日中韓親善レガッタ(伊藝)

仮スケジュールと人員配置は作成した。葉山マリーナに話を通したいと思っている。(伊藝)

インターナショナルレガッタになるのでアンパイヤの資格を持った方々にも協力を仰ぐ。
(中澤)

親善レースなので、ジャッジはオンザウォーターにして、陸に上がってのモヤモヤは無くしたほうが良いと思う。(伊藝)

オンザウォーターの経験のある人材を。(児玉)

自分が本部の中心になってオーガナイズしたいと思っている。運営の組織図も作成したい。
日本チームの選考方法は？(伊藝)

ミドルボート等々で優勝したチーム？応募？どちらにしても手を挙げてもらったほうが良い。抽選が一番無難だが、実績も加味しないと・・・(中澤)

早めに公表する必要がある。エントリーフィーはパーティー代くらい。スポンサー含め費用が集まれば。(伊藝)

宿泊先の国際村の状況も確認する。全額スポンサーは厳しいがアテはありそう。協賛という形でサポートボートを出せばいいのではないかと。(中澤)

最低限 160 万くらいのレース運営費用がかかる。予算算定を今後する予定。人材の確保も必要。パーティー開催場所、形式も考えなければならない。パーティーは日本独特のスタイルで、コンパクトに、がいいのではないかと？ヨットレースメインで考えたい。(伊藝)

レース名称も表記の仕方は外交問題もあるので注意が必要。(児玉)

学生、ボランティアも含め道筋、たたき台作りを伊藝さんをお願いしたい。(金子)

近々に葉山マリーナに挨拶に行く予定。その後 JSAF 経由で JSAF マターで PR できれば。4 月中に概要を決定させる。
(中澤)

◆ 理事会報告 (児玉)

以上

◆ 次回委員会の開催日：未定、決定次第 web 公開及びメール配信します。

◆ 議事録作成者：熊谷一樹 議事録署名人：中澤信夫